

サークル・アクメハゲ

作者・ジョー長谷川

お義父様、
セックスは
さっきしたでしょ？



今日は光雄さんの大好きな
シチューを作っておきますから

早く帰って来てくださいね♡

それは嬉しいなあ
君の美味しい料理を食べるために
なるだけ残業は避けるとしよう

むにゅ♡

主婦になってから
夫の帰りを待つ
喜びを知り

家事の時間にも
慣れた今日この頃です

優しくてカッヨイイ旦那様

今日という今日こそは

夜にいっぱい可愛がって
貰うんですからね♡

美智子さんやあ

光雄はもう会社に行
ったのかのお

お義父様

おはようございます

光雄さんなら

今、出掛けたところですよ

一つ

不満があると

するならば……

お義理様の
セクハラです

お義父様……

この手は何ですか？

さわ……

さわ……

いやあ
触り心地の良さそうな
尻だったもんでのお

いい加減およし
になってください……

美智子さんこそ下品な尻で
ワシを惑わすのを
やめてほしいもんじゃ

この方は勝次お義父様

光雄さんの目を盗んで
私の体に触れてきます

すりすり

最近息子とは夜の方も
ご無沙汰じやろう

どうじゃ？

光雄とは違って別の
『息子』も一本あるぞ？

こんなにギンギンじゃ

お義理父様……

やめてください……

高齢とは思えない程
遅しく反り返った棒を
私に見せつけてくるのです

いつまでこの
セクハラが
続くのでしょうか

いつか一線を越えて
襲われないかと思うと
夜も眠れません

一ヵ月後

お義父様

起きてください
お体を拭きますからね

勝次さんには無縁だと思われた
認知症が突如進行して
以前のような卑猥な顔で私を見たり
汚い言葉で責め立てる
というような事はなくなりました

ううう……

以前からお義父様の事を
好ましくは思いませんでしたが
今の姿を見ると気の毒になってしまいます

はーい脱ぎ脱ぎしましょうねー

パンザイしてください

いそいそ

んんう……

こう言うって是不謹慎かもしれませんが
まるで子供を相手にしている様なので
以前のお義父様より今の方が私は好きです
ゴシゴシしますよー

気持ちいいですかー？

うう……



っひひ！

むぎゅっ



ただし性欲は以前と
変わらない様です

うう…んっ♡

んっ♡

悪気も無く
本能のままに体を
弄んでいる感じがして
以前にも増して
責めが激しくなったというか

『アッチ』の方も
元気なままです

むにゅん

ギンッ



ああ……
私はどうしたら
いいのでしょうか

っっ♡！

今お義父様は
赤ん坊同然なのです
ちゅぶっ

うまつ
うまつ

必死に生物の性を
満たしているだけで
そこには一切の邪な
思いは無いのです
私は耐えられるのでしょうか……
私は『何』を耐えているのでしょうか……

「更に一ヵ月後」

ふんふん♪

一時はどうなる事かと
はらはらと心配しましたが
私は元気にやっています

今思えばいつも

私の人生は

耐えてばかりでした

光雄さんとの結婚も

受け身になって

プロポーズを待ち続け

今は主人の帰りを

待ち続けています

なんて事はありません

行動を起こせば良かったのです

美智子ちゃん

もみゅ

もにゅ

お義父様の一件で

私は気づけたのです

危ないじゃないですかあ
料理中ですょ？

もうい

もみゅ♡

美智子しゃん!

美智子しゃん!

駄目ですよー

お義父様、セックスは
さつきしたでしょ?

今日のセックスは
もうナイナイですよー

我慢する必要なんて
始めから無かったんです

美智子しゃんー!

せつくしゅ!

せつくしゅう!

わかりました!
わかりました!

寝室に行くから
ここではしないでください!

どうして私がお義父様とセックスする事になったかというところ、一カ月前の体を拭く際の事

恥ずかがつちや駄目よ

介護なんだから

ここもしっかり洗わなきゃね

お義父様の熱いアソコはタオル越しでもわかる位に熱を持っていました

初夜以来見ていない光雄さんのアソコ……

最愛の人のモノに比べてグロテスクで大きい

そんな事を考えていました

美智子しゃん

つきゃあ！

グイッ

お義父様っ？！

お義父様に密着した時に加齢臭とは違う別の臭いが鼻の奥を突きました

拭き残していた雄の臭い

むっと蒸した恥垢の臭いを

私の牝の部分で感じました

急に体を引き寄せられた私はされるが儘に前のめりになりました

ぴったりと
亀頭が頬に触れ

先端から漏れている
液体が私の肌に
ぬちやぬちやと
粘りつきます

すっごく……いい

ッスー……

臭い♡

雄の臭いに
頭がクラクラした私は
暫くその態勢のまま

臭いを鼻腔で
反芻させました

正常に頭が動いて
いなかったんだと思います
何の気無しに
素手で掴んでみました

とても気持ちよさそうな顔を
お父様がしていたので

ああ

気持ち
良いんだな

うあああ

これが正解
かなのかな？

そう思って
そのまま動かしました

上下に抜くと大きさと
硬さがどんどん増していった

フー……♡
フーッ……♡

どこまで立派に
なるんだろうと気になって
徐々に手のスピードを
上げてみたんです

別に前戯や愛撫を
しているとは思わなくて
ただの好奇心だったんです

ううっ………!!

やはり高齢のせい
か射精という感じでは
なかったんです

あっ……

亀頭の先端から
だくだくと溢れて
竿を伝うような感じで
精液が漏れていました

私の手にお義父様の精液が
触れる日が来るとは思わなくて

びゅぶ………っ

なんだか夢でも
見ている様でした

いつの間にか
お義父様の
呻き声と一緒に
精液が
漏れていました



出すものを
出したお陰なのか
暫くお触りは
落ち着きました

私のお尻を見ても
抱きつかないですし

こんな事なら早めに
してあげれば良かったのかなー
なんて思いました

だからいい子にしてるご褒美に
たまにしてあげるんです



ずいめっ ♡

ぐいめっ ♡

勿論光雄さんとする日が
来た時のための練習も
兼ねてるんですよ？

パイ加減は
よろしいですか？

お義父様？
如何ですか

夫にはしていない
あんな事やこんな事を



むちゅう ♡



お布団を汚したら嫌だなあっと思って

次からはお風呂場ですればいいかって思ったんです

最近はお義父様も
ご褒美の時は
積極的に動くようにな
ったのですが

ずりゅん

ずりゅんっ

一方的すぎて
複雑な気持ちというか
要は私の方が優位に
立ちたいのかなあ
って思います

腋に擦りつけられるなんて
なんか物みたいになんて
扱われてるみたいで
嫌な感じがするんです

美智子ちゃん!

出るっ!

でるう!

私の体の
どこでも良いのだったら
一人でオナニーでも
すればいいのって思うんです

事が済んだら
シャワーを直ぐに
浴びれるので

まゆっ

嫌な気持ちも一緒に
洗い流せるので
お風呂での
性処理が一番楽です

他の家庭ではどうやって
高齢者の性処理を
しているのでしょうか

シャアアア……

私以外にも似た経験を
持つ人は居ないのでしょ
うか

お風呂場での性処理も
慣れてきた頃に過ちは起きました

ふんふーん♪

綺麗にしましょうねー

ここまで言えば
どうなったか大体
予想がつくと思います

お義父様の
背中を洗っていたら
手から石鹸が
抜け落ちてしまったんです

ぷりんっ

石鹸を屈んで
取ろうとしたんですけれど

その……

誘ってる風に

見えたのかもしれませんが

射精した後なので
襲ってこないだろうと
油断していた私が
馬鹿だったんです

よいしょっと……

美智子

しゃん！

私の背中に
お義父様が
這い上って来たんですよ

挿入される恐れよりも
転倒したら危ないと思って
注意したんです

お義父様！
離れてください！

注意しても聞かず
腰をカクカク動かしながら
犬みたいに交尾しようと
必死でした

ずりっ

冷えた浴室のせいで
押し付けられたモノの
熱が凄い伝わってくるんです

熱した鉄をお尻の隙間で
前後に動かされている感じで

ちよつと気持ちよくなつて
しまった瞬間に……

んっ♡

っ
ん

ズブウつと

入っちゃったんです
熱くて太い竿が

おづっ

今まで拒んでいたのに
あっさりと……

床に倒れる音と
ハマってしまった音が
浴室でこだまします

ちゅ

ば

んお

っ♡

ぱんっ ぱんっ

みちこしや!

みちこしや!

ぱんっ ぱんっ

お義父様あん♡
ピストン嫌っ♡

私の名前を呼びながら
お義父様が興奮して
腰を前後に動かし始めました

腰に回した腕を
引き剥がそうとしても
ガッチリ捕まえられて

んっ♡

あっ♡

離れてえっ♡

ばちいんっ

って執拗に腰を
打ち付けてくるんです

ばちいんっ

おっ♡

おあっ♡

んおっ♡

ばあんっ

「ああ、もう絶対
逃げられないんだ」って

「このまま中に精子を
出されちゃうんだ」って

ばあんっ

ピストンに身を任せながら
快楽と諦めの感情が湧き出て
変な虚脱感を覚えたんです

気が楽になって
手を放したんです
もういいやって

私の体も悦んでいたの
で正直に従ったんです

雄の本能に対して
雌の本能で
受け入れました

ど
ぴゅ

子宮が精子で
満たされるのを
感じながら

ふうーっ♡♡

んががっ

セックスって気持ちいいなあ
と心の底から感じたんです

残業なさるんですか？

光雄さんは今日も
帰りが遅くなるそうです

仕事忙しいのは
仕事が無いよりも良い
という事はわかってはいます

わかってはいるんです

でも……

お家に帰ってきてくれないと

もう我慢が出来ないんです

お風呂場の一件で

スイッチが入ってしまって

お義父様……

んあ？

結局のところ
光雄さんへの愛とは別に
体が求めてしまうんです
世間に淫らとか
節操の無い女と言われても
別にいいんです

セックスが

したいんですもの♡

光雄さんが
帰って来るまで

オチンポ
お借りしますね♡

私の中に
入れたがつていた
お義父様が
受け身になっていて

嫌がつていた私が
襲うなんて

世の中
何があるか
わからない
モノです

事を理解出来ない
義理の父を

性に飢えた人妻が犯す

多分私は
淫乱体質なんです

自分の胸が邪魔でよく見えませんが

私の股の間に雄の臭いを孕んだ湯気が当たり

私はお義父様のモノが
真下にある事を感じました

くちゅ…

挿入の時間が
待ちきれず

少しずりずりと

亀頭を舐めるように弄び

お義父様のマラを
私の入口に触れ

狙いを定めて

じゅぶぶう

つと腰を根元まで
下ろしたんです

おっおっ

〜ん♡

間の抜けた声を
出したのを覚えてます

それ程気持ちよかったんですよ

背骨から快樂の波が

脳にまで突き上がりました

私が気持ちよくなっていると

お義父様が手を

こちらに向けてきました

あ……

ああ……

少し困った表情を

見る限りやめて

ほしいかったんだと思います

散々私を求めてきた癖に

本当に自分勝手な人です

ぎゅっ

でも駄目です

許しません

私はお義父様の手を
強く握り返しました

私が満足するまで

この手は

放しませんからね♡

どうしたんですかー？

以前はあんなに私を
犯したがっていたじゃないですか

どうぞ、たあゝっぷり
楽しんでください♡

むんうん！！

んんうん！！

ほらあ♡

おっぱいですよー♡

じゅちゅ

ぬちゅ

ごちゅん

ぬちゅ

ずっちゅっ

今まで私の中に眠っていた嗜虐心が
性欲と一緒に漏れ出して来ました

うふふ♡

気持ちいいですかあゝ？

ずっちゅん

それから私は宣言通りに
腰を振り続け

ぎゅっ……

お義父様の
チンポは年甲斐も無く
ガチガチに硬いままでした

たんっ

ぶびゅ

尻を落とす度に
射精が繰り返され

たんっ

ぶびゅびゅ

お義父様の
呻き声があがります

ああああ……

ぶびゅびゅ

接合部分から
大量の精子が
漏れ出ていた頃に

予想外の出来事が
起こりました

んあ……美智子……さん

なんとお義父様の
意識が回復したのです

あ、え、あ

お、お義父様

さっきの威勢は

どこへやら

私はすっかり

狼狽してしまいました

貴様ワシを

殺そうとしたのか!

ずっこん!

ひゃあん!

淫乱女がつ!
犯し殺してやるぞ!

返り討ちじゃ!

ばるんっ

おっ♡
違うんですっ♡

おっ♡違っ♡

おっ♡

ばるんっ

デカイ乳しよって!

ワシを殺すような
乳はこうじゃ!

あんっ!

もつと優しく
扱ってえ♡

うるさいぞ!
スケベ乳首が!

ぎゅぎゅ

いやあん♡



お乳
伸ばさないで
くださいっ

んひっ

むにゅ〜ん♡

ワシの死んだ婆さんと
同じくらい伸ばしてやるわっ!

このデカ乳
お化けめ!

こうじゃ!
こうじゃ!

あひっ♡

激しすぎますう♡

あひい♡

おっはい
千切れちゃうっ

お止めになってえ♡

お乳
降参ですっ!

参りましたっ!
許してえ!

死ねっ死ねっ!

デカ乳伸びて
このままアクメしろ!

ア
ク
メ
地
獄
に

アクメってるううう♡

子宮とおっぱいが
イキ死んじゃってるう♡

[illegible]

私はマヅでした

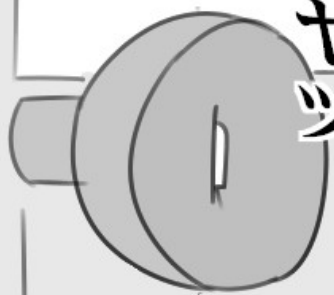
老人に酷い言葉を言われて
胸を責められる事に悦びを覚える
ドの付くエムでした

次の日
お義父様の意識は
またあやふやに戻っていて
以前と同じように
光雄さんに隠れて
お義父様の性処理をしています



ガチャッ

でも時々



ほんの数カ月了一遍



元に戻る事があるんです



びんた

お帰りなさい♡
お義父様♡

光雄は
今どこじゃ？

会社です♡

そうか…ワシも働くとするか……
雌を躑ける仕事があるでの

はい♡
美智子を躑けてください♡

今では夫の帰りより
お義父様の帰りが
待ち遠しくなりました

かばあ♡